

放課後児童クラブ利用に関する WEBアンケート調査結果

特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール
2024.3.18

『本質的な放課後の課題解決』に向けて、実態の把握と課題の特定を

放課後NPOアフタースクールでは、安全で豊かな放課後を日本全国で実現するため、地方自治体や企業と連携して全国の放課後事業者の支援を行う他、放課後の実態調査や課題の可視化、政策提言などの活動も行っています。

昨今、子どもの居場所の重要性への関心が高まりつつあるなか、2023年春には「#学童落ちた」というSNS上での発信に端を発し、「小1の壁」が社会問題として注目されるなど、小学生の放課後の居場所にまつわる様々な問題が話題になりました。

こども家庭庁においては、2023年12月に「こどもの居場所づくりに関する指針」を決定するなど、子どもの居場所づくりに注力していく方針が示されています。また、放課後児童クラブについては、同月に「放課後児童対策パッケージ」を発表し、待機児童解消に向けた受け皿整備の強化に加え、多様な

居場所づくりの推進や質の向上に向けた施策が盛り込まれるなど、すべての子どもが放課後を安全・安心に過ごすための居場所整備に向けた対策が強化されることにも期待がされます。

一方で、本質的な課題解決が進むためには、放課後の実態の把握や課題の特定がまだ十分ではないのではないかと問題意識をもっています。

私たちはこれまで子どもの放課後の居場所に悩む保護者の声を数多く聴いてきました。その中には「子どもが『学童に行きたくない』と言って困っている」「入学して早々に学童に行かなくなってしまった」という声は少なくありません。また、共働きでも放課後児童クラブを利用していない家庭が多くあり、毎日のように習い事の予定を入れたり、家で低学年の子どもが一人で留守番をしているケースも耳にします。

その中には、様々な理由で放課後児童クラブに申し込みすらしなかったというケースも聞きます。これらのケースは「待機児童」としてカウントされず、対策の対象に含まれていません。

このような背景から、この度、放課後児童クラブの利用状況や利用にあたっての保護者と子どもの意識について、現利用者だけでなく、利用しなかった層、利用をやめた層にも焦点を当てて実態を明らかにする試みを行うことにしました。

今回の調査をきっかけに、放課後の課題の特定が進み、より本質的な解決策につながっていくことを期待しています。



代表理事 平岩国泰

今回の調査から見えた重要なポイント

本調査結果においては、放課後児童クラブを「学童」と表記します。

② 非入所者の入所しなかった理由は、都市部では「子どもが行きたがらなかったから(32.6%)」、都市部以外では「家族のサポートが得られたから(44.4%)」が多い傾向となった。

① 小学校低学年の子どもがいる共働き家庭を対象に学童の利用状況を確認したところ、
「入所しなかった」が44.4%
「入所したがすでに退所している」が15.6%
「利用中」が40.0%となった。

③ 退所者の退所時期は、1年生の前半が約30%、特に1年生の4月が多く16.1%を占めた。
1年生での退所の理由は「子どもが行きたがらなくなったから(35.7%)」「働き方を変えたから(28.6%)」が多い傾向となった。

④ 現利用者の「学童に満足していない」理由や退所者の退所理由を子どもに聞くと、共通して、「楽しくないから」「仲がいい友達と遊べないから」という声が多くあがった。また、現利用者と比べて退所者の評価（子どもによる回答）が低い項目として、「困った時に助けてくれる人がいる」「大人(職員)が話を聞いてくれる」などがあがった。

対象者 小学校低学年の子どもをもつ共働き男女

調査期間 2024年2月21日～23日

調査方法 インターネットアンケート調査会社のモニターを利用したWEB調査

有効回答数 360人

調査項目

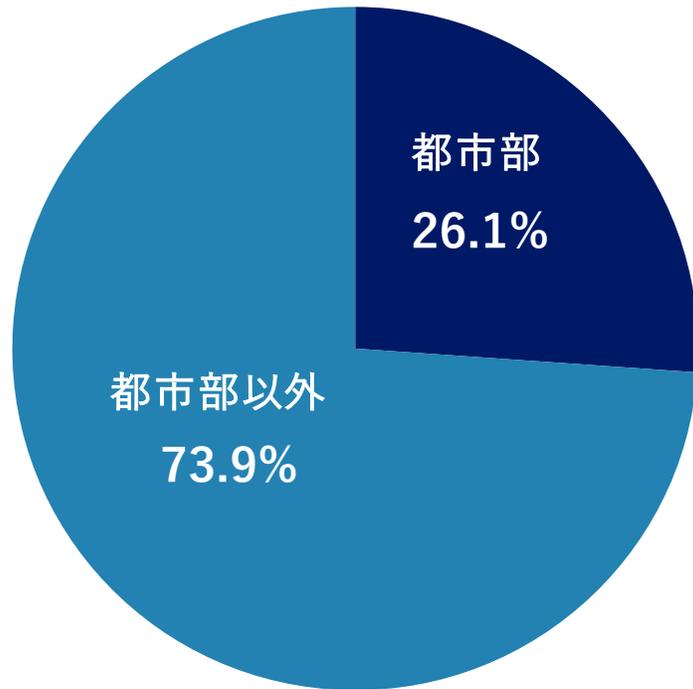
- ・年齢、性別、就労形態、居住地（都道府県）、子どもの学年
- ・学童の利用状況
- ・学童非入所者：非入所理由
- ・学童退所者：入所理由、退所時期、退所理由、利用時の保護者の満足度と理由、
利用時の子どもの満足度と理由（保護者が子どもに聞いて回答）
- ・学童現利用者：入所理由、利用時の保護者の満足度と理由
利用時の子どもの満足度と理由（保護者が子どもに聞いて回答）

調査概要：回答者サンプル構成

調査サンプルの居住地割合と子どもの学年は以下の通り。

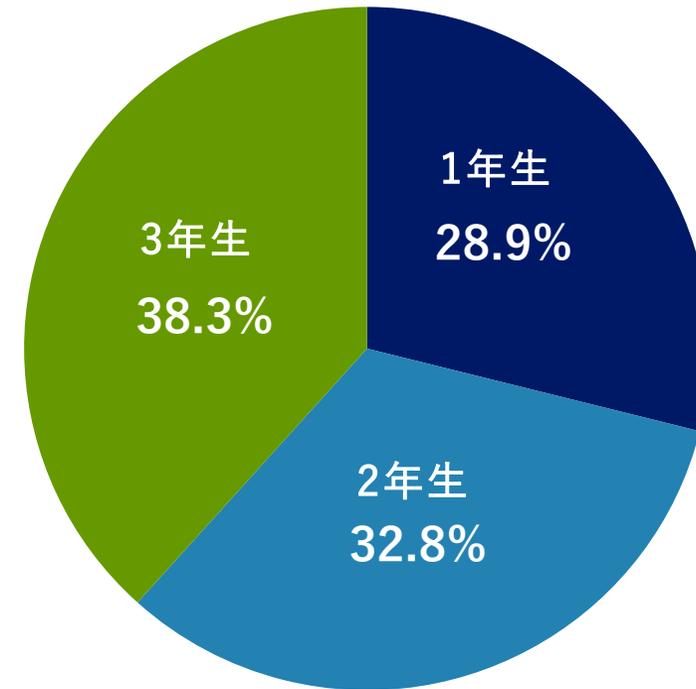
ご自身の居住地について教えてください(N=360)

■ 都市部（東京23区、政令指定都市） ■ 都市部以外



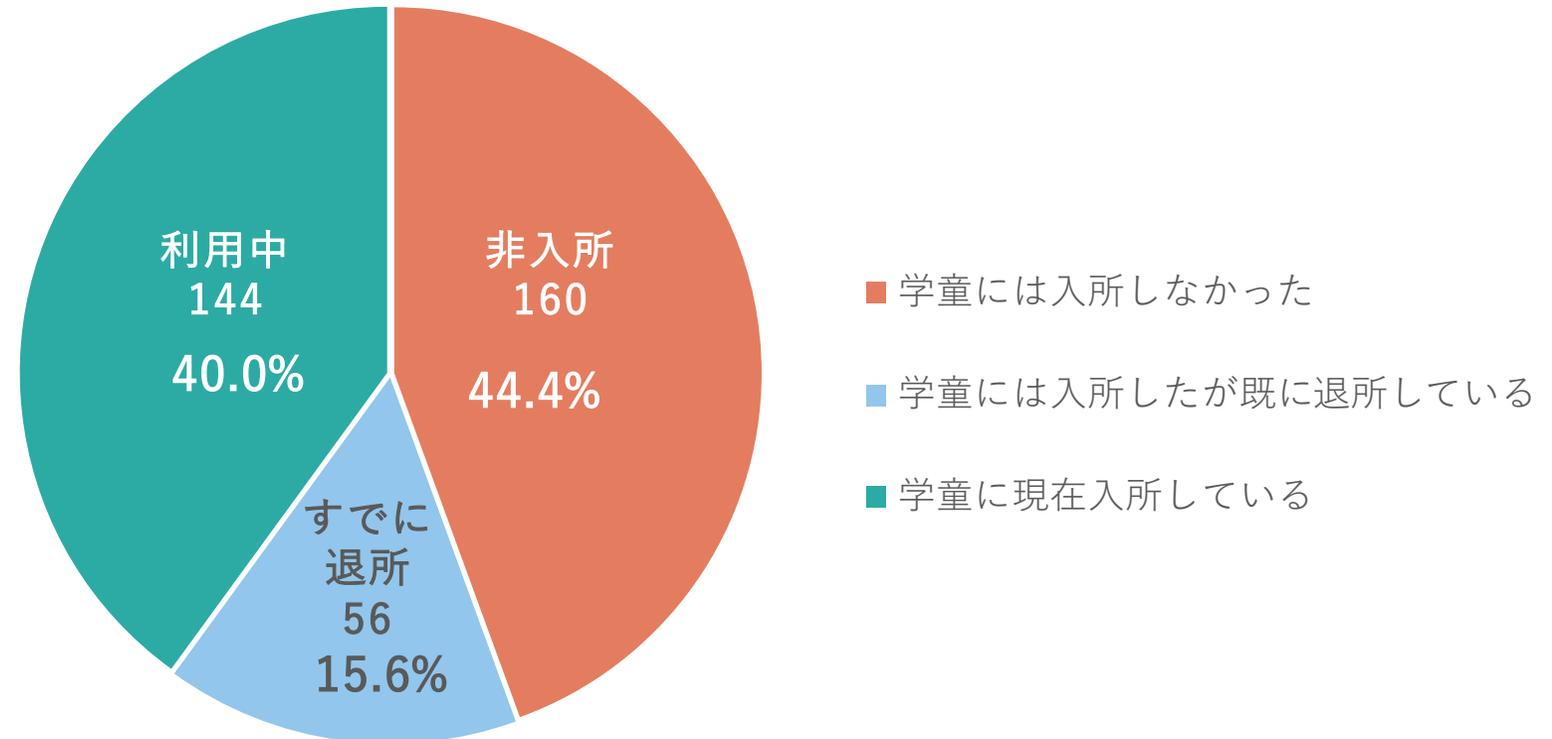
回答対象になる小学校低学年の子どもの学年 (N=360)

■ 1年生 ■ 2年生 ■ 3年生



今回の調査における学童の利用状況別の回答は、「学童には入所しなかった」44.4%、「学童に入所したがすでに退所している」15.6%、「学童を現在利用している」40.0%という構成になった。

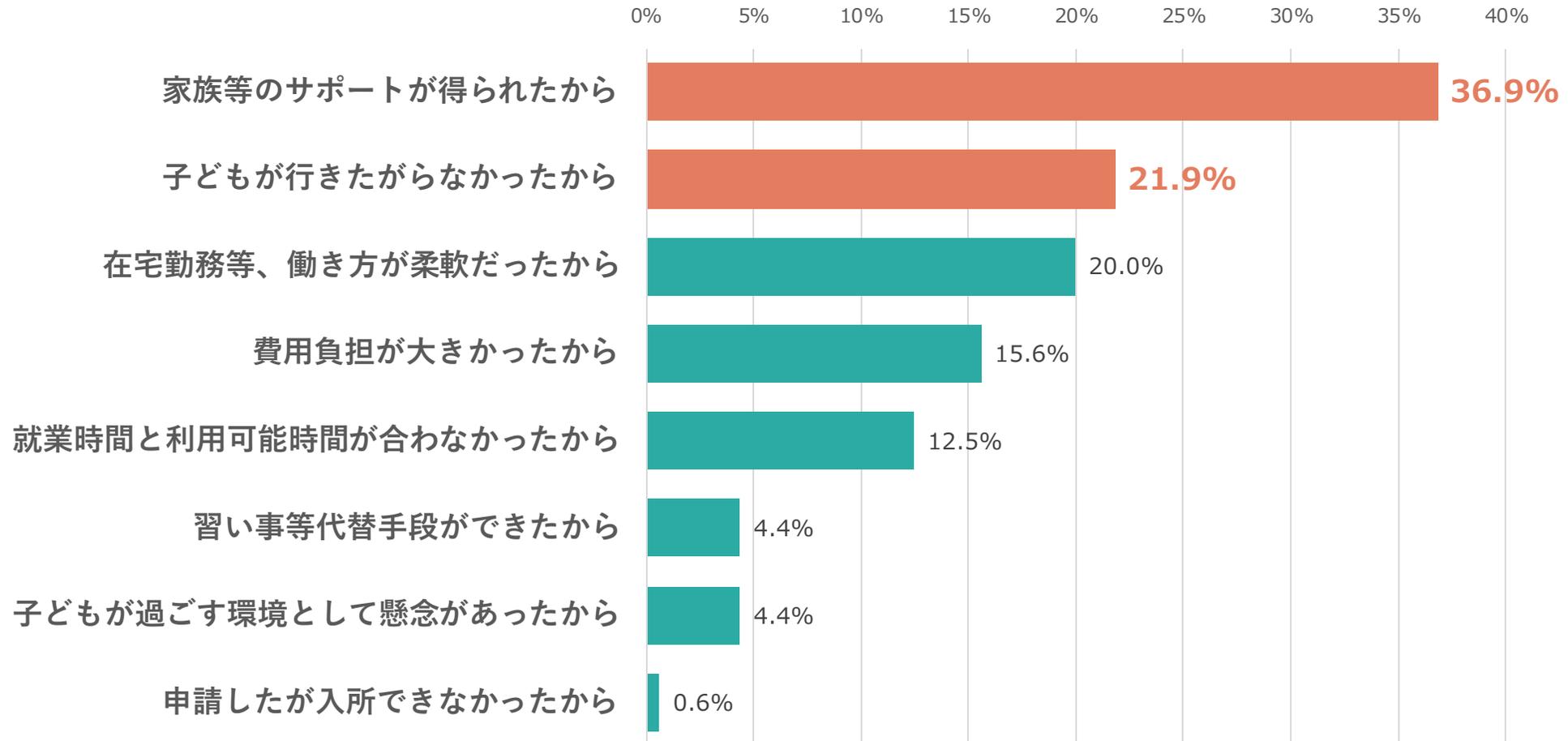
お子さんの放課後児童クラブの利用状況について教えてください (N=360)



調査結果2-1： 学童に入所しなかった理由

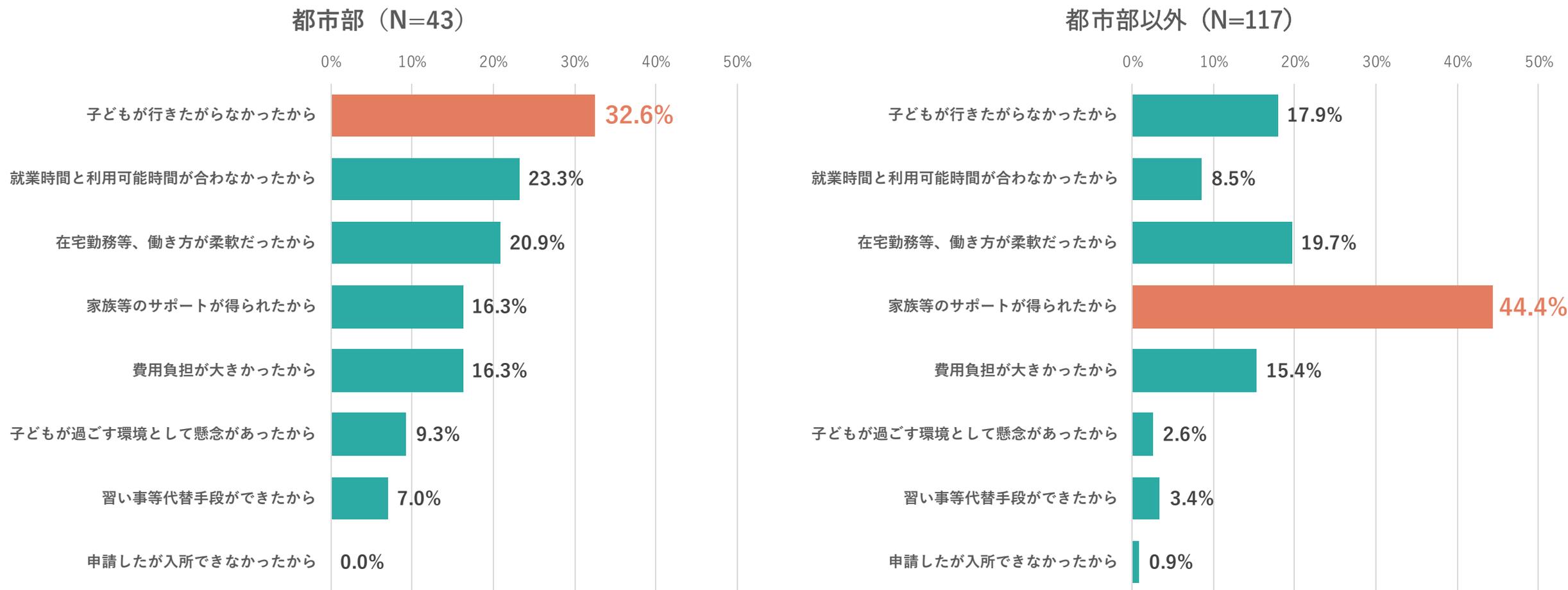
学童に入所しなかった理由としては、「家族等のサポートが得られたから（36.9%）」が最多、次いで「子どもが行きたがらなかったから（21.9%）」との回答があった。

学童に入所しなかった理由としてあてはまるものを教えてください（N=160）



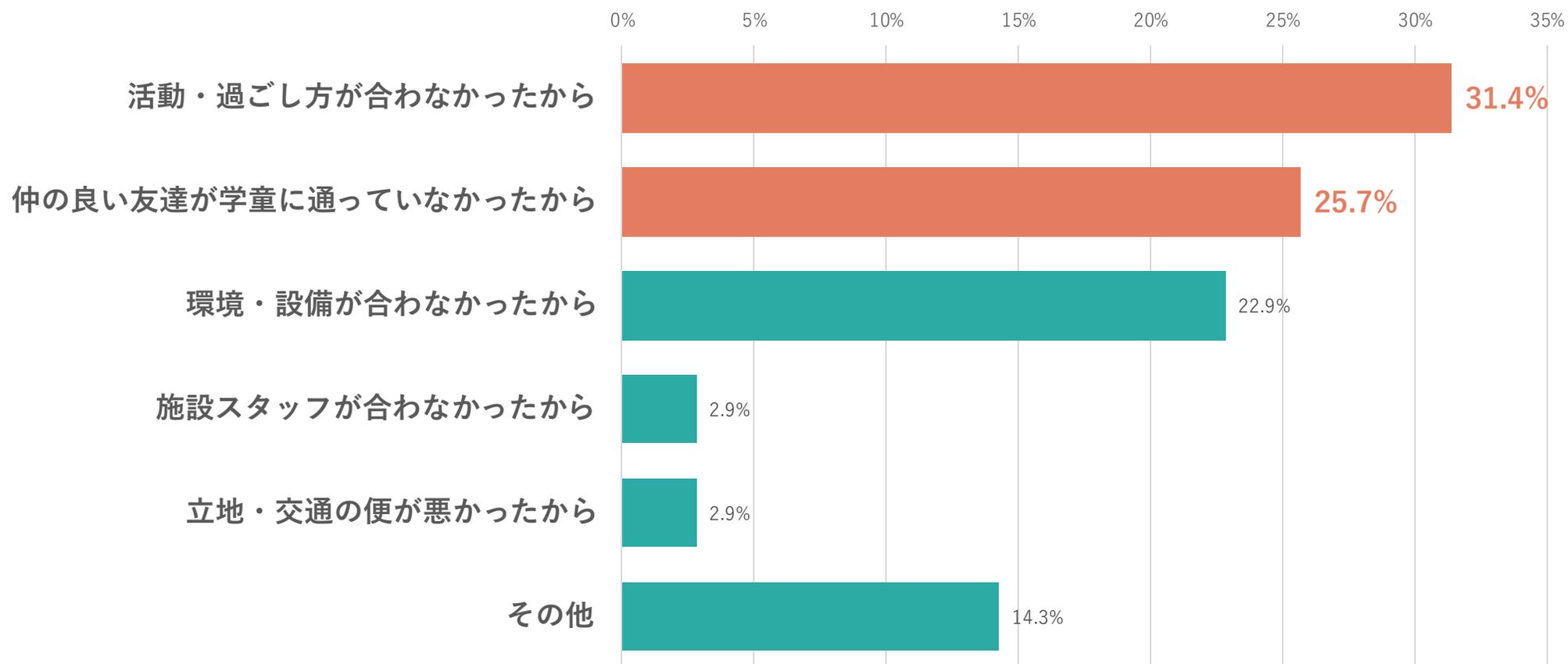
調査結果2-2：学童に入所しなかった理由（居住地別）

居住地別に見ると、都市部(23区・政令指定都市)では「子どもが行きたがらなかったから(32.6%)」が多く、都市部以外では「家族等のサポートが得られたから(44.4%)」が多い傾向にあった。



「子どもが学童に行きたがらなかった」要因としては、「活動・過ごし方が合わなかったから(31.4%)」が最多、次いで「仲の良い友達が学童に通っていなかったから(25.7%)」「環境・設備が合わなかったから(22.9%)」という回答となった。

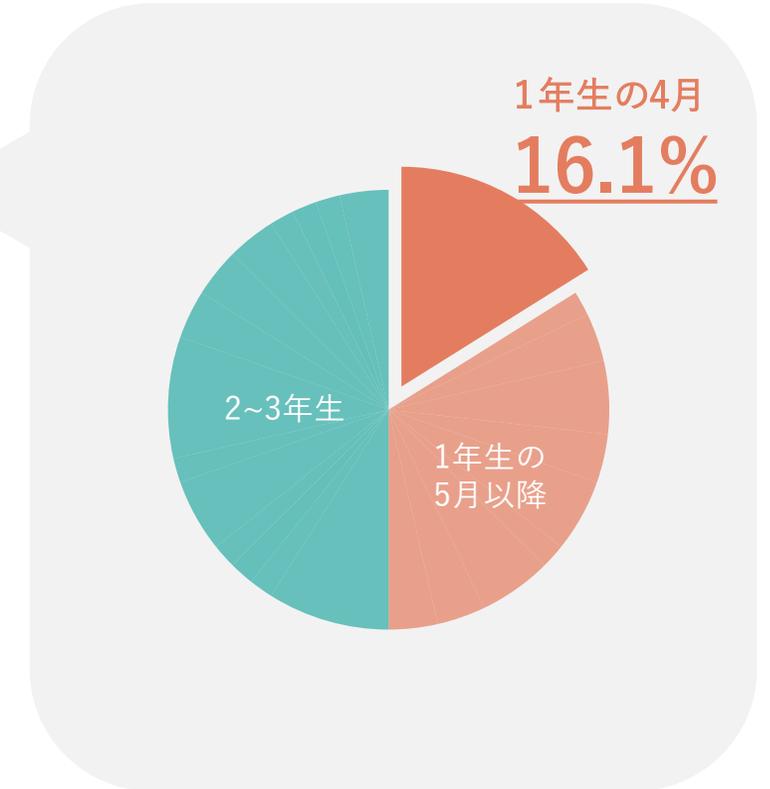
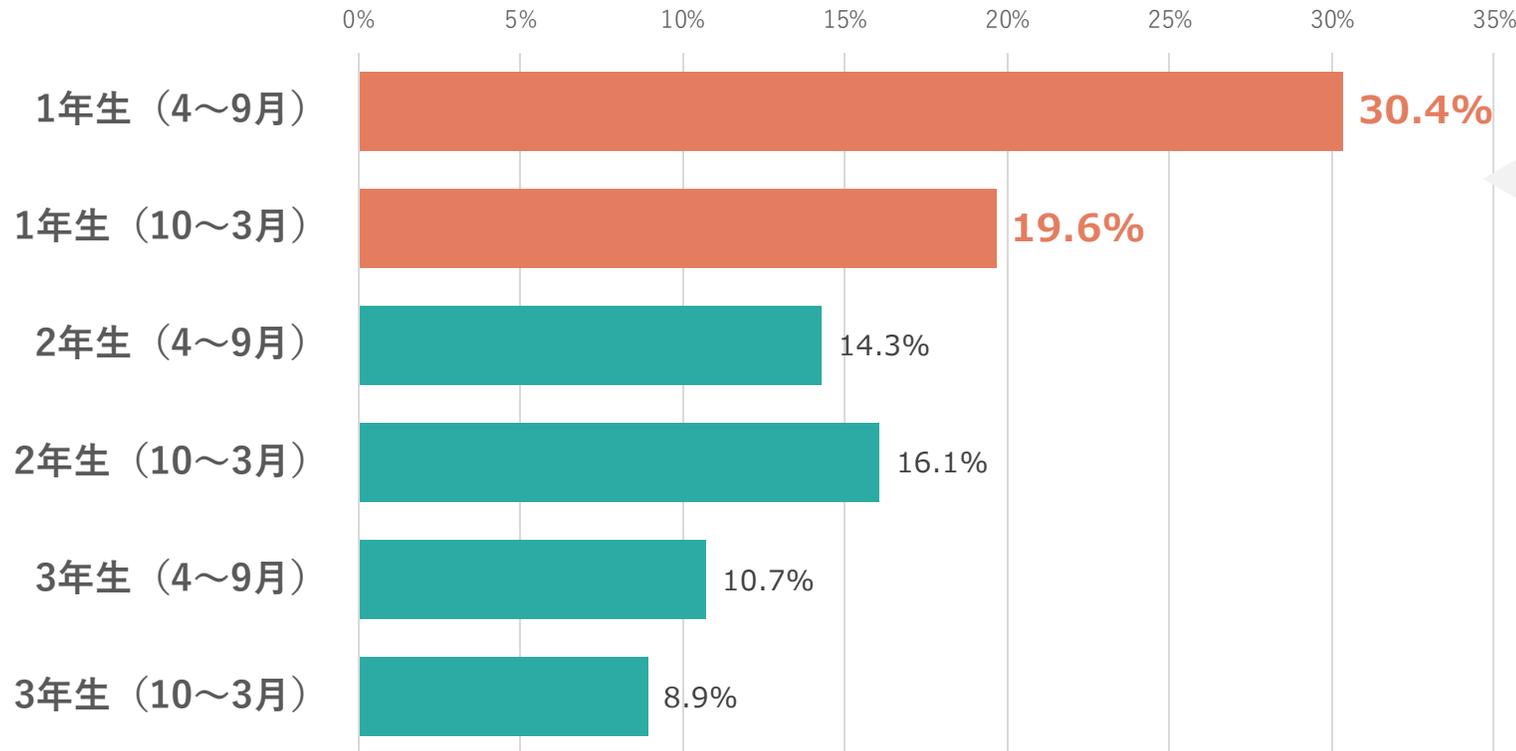
「子どもが学童に行きたがらなかった」要因 (N=35)



調査結果3-1：学童を退所した時期

学童退所者の退所時期を聞くと、約30%が1年生の前半（1年生の4月が16.1%）に、50%が1年生のうちに学童を退所していた。

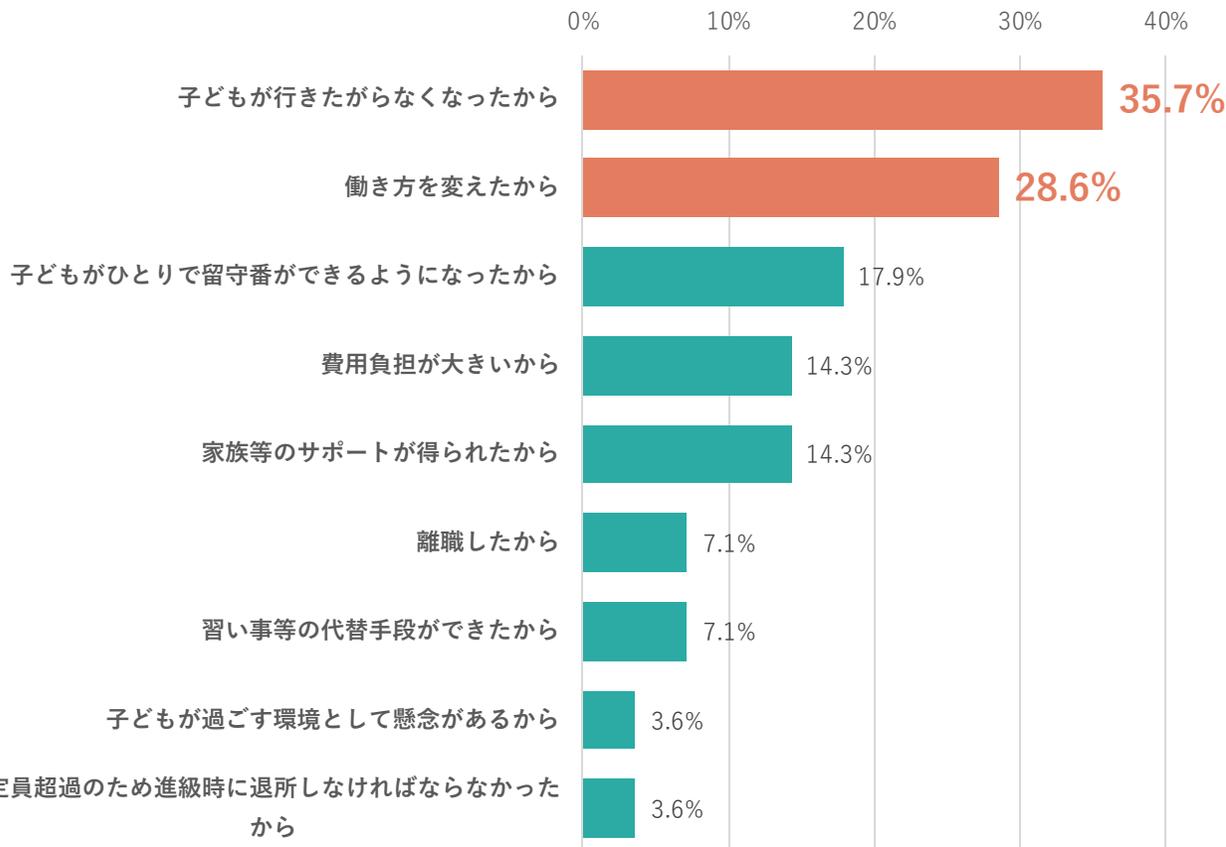
学童を退所された際のお子さんの学年と時期を教えてください（N=56）



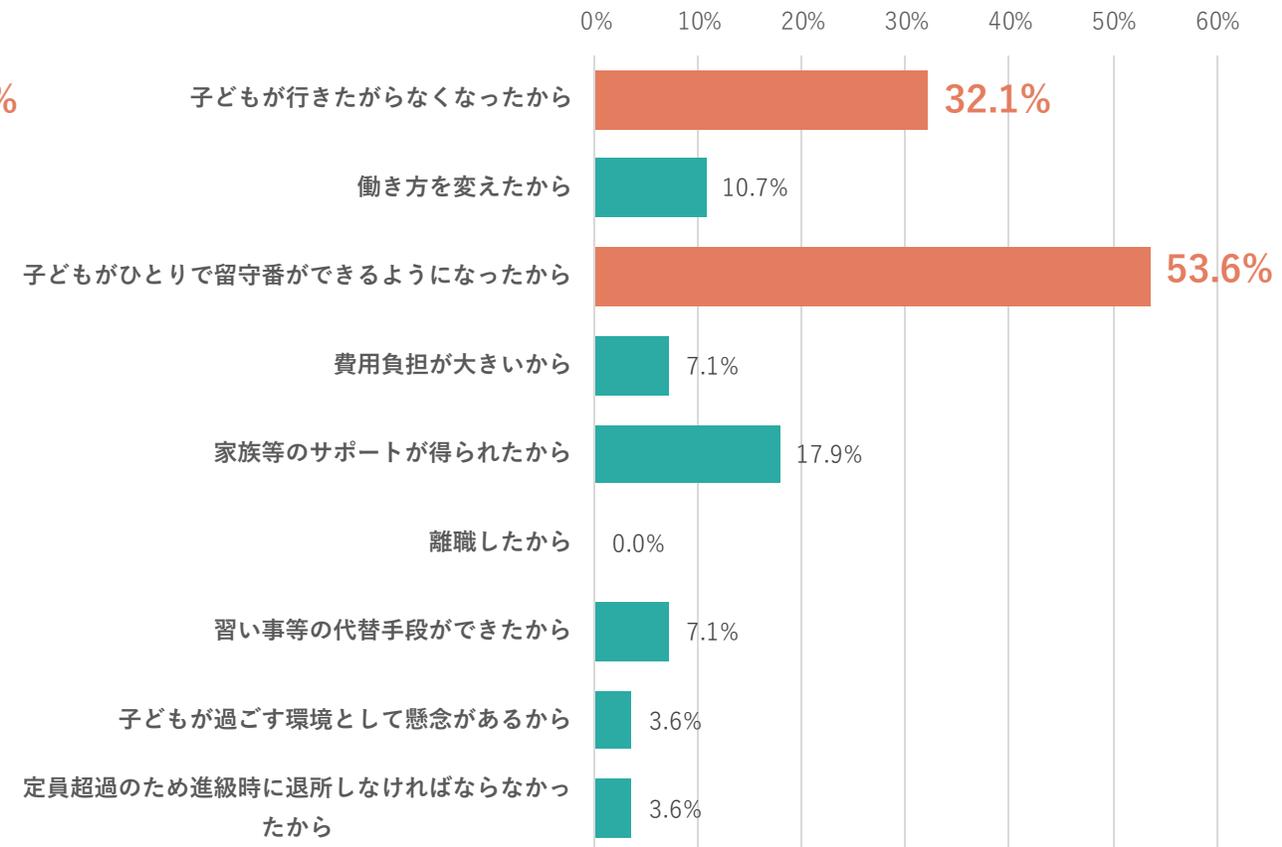
調査結果3-2：学童を退所した理由

退所時期別に退所理由を聞くと、**1年生での退所者は「子どもが行きたがらなくなったから(35.7%)」が最多、次いで「働き方の変更(28.6%)」、一方、2・3年生での退所者は「ひとりで留守番ができるようになったから(53.6%)」、次いで「子どもが行きたがらなくなったから(32.1%)」が多い傾向にあった。**

1年生で退所 (N=28)

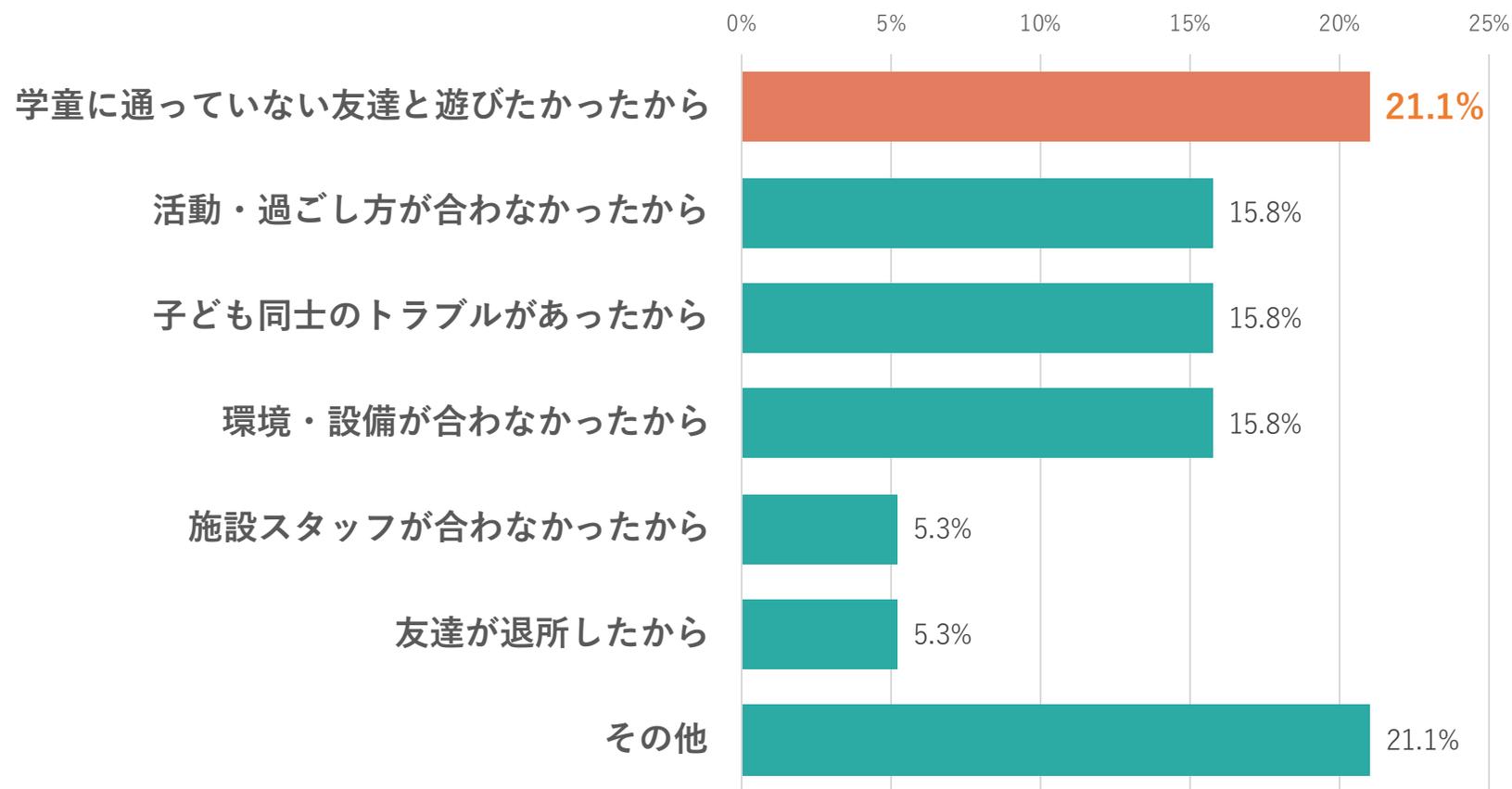


2~3年生で退所 (N=28)



「子どもが学童に行きたがらなくなった」要因としては、「学童に通っていない友達と遊びたかったから(21.1%)」が多くあがったほか、「活動・過ごし方」「子ども同士のトラブル」「環境・設備」という回答もあった。

「子どもが学童に行きたがらなくなった」要因(N=19)

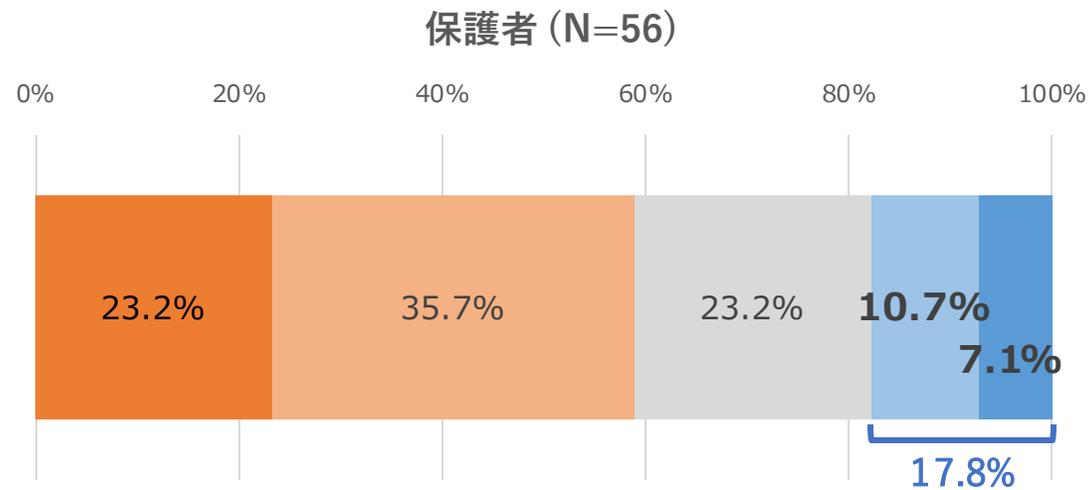


子どもの声

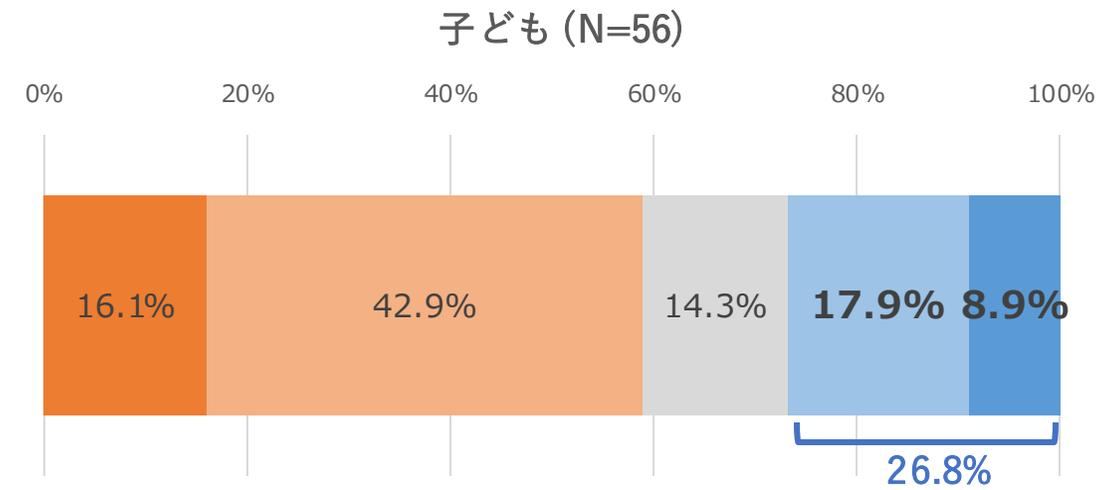
- 楽しくなかった (島根県2年生、大阪府2年他、多数)
- 仲のいい友達が少なかった (岩手県2年生)
- 学童に行っていない友だちと遊びたかったから (大阪府3年生)
- 意地悪な子がいたから (石川県3年生、高知県1年生)
- お友達がうるさい、宿題できない (岩手県2年生)
- 家にいたかったから (埼玉県3年生)
- 外遊びがすくない (埼玉県2年生)
- 疲れる (埼玉県3年生)

調査結果3-4：退所者の満足度

退所者の学童に対する満足度を保護者・子どもそれぞれに聞くと、「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計は親子での差はなかったが、「満足していなかった」と「どちらかといえば満足していなかった」の合計は子どもがやや高い傾向にあった。



- 満足していた
- どちらかといえば満足していた
- どちらでもなかった
- どちらかといえば満足していない
- 満足していなかった

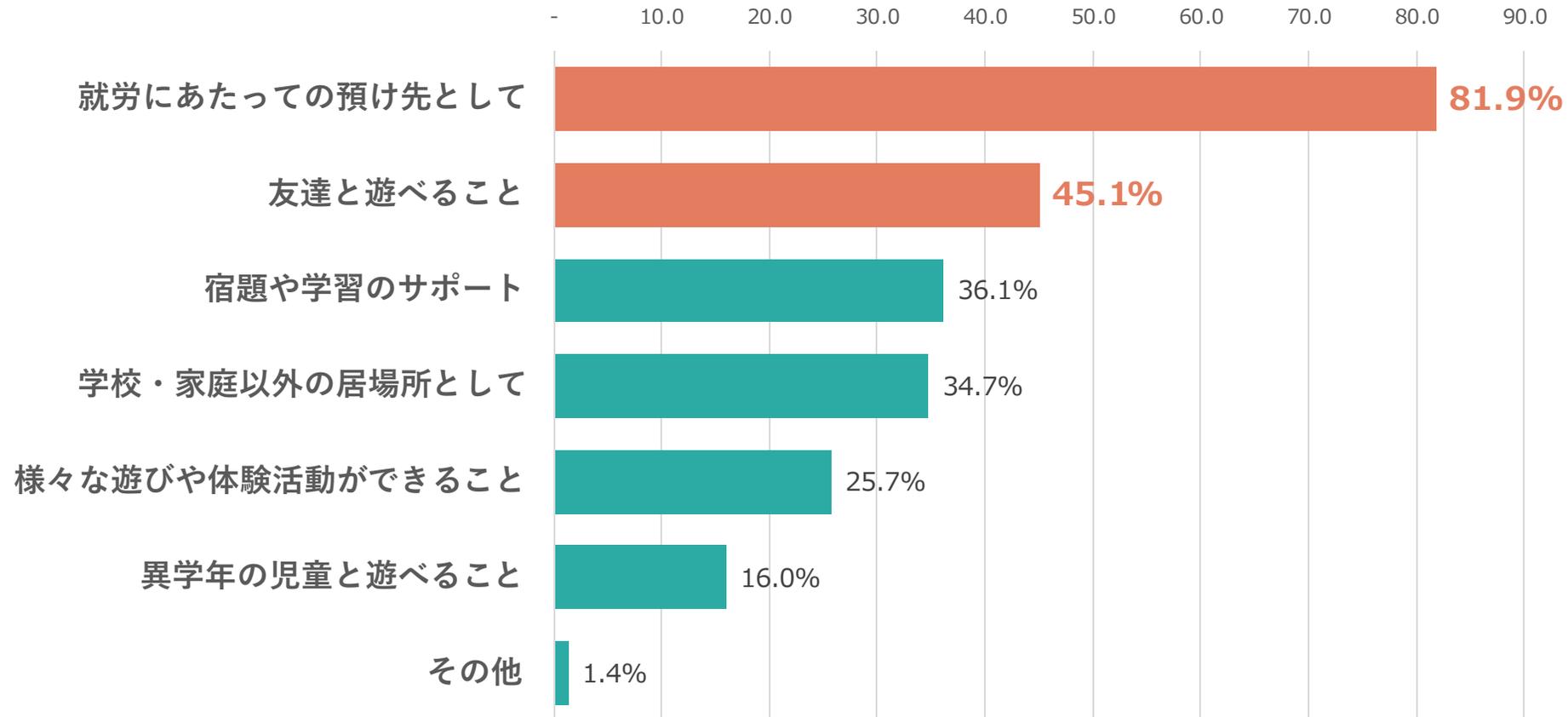


- 満足していた
- どちらかといえば満足していた
- どちらでもなかった
- あまり満足していなかった
- 満足していなかった

調査結果4-1：現利用者の入所時の「学童への期待」

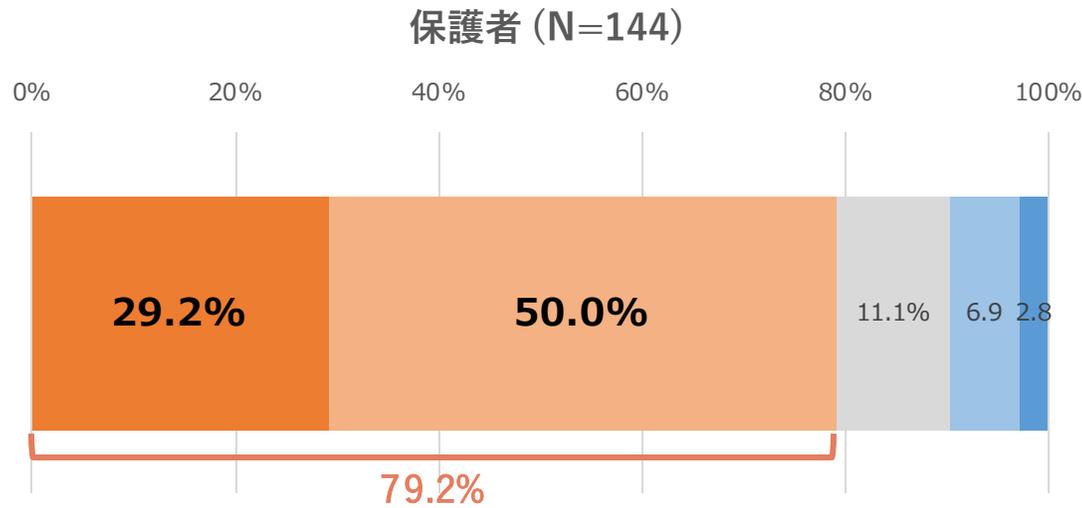
現学童利用者に対して、入所時の学童への期待を聞くと「就労にあたっての預け先として」が81.9%、次いで「子どもが友達と遊べること」が45.1%となった

学童への入所にあたって、学童に期待したことを教えてください（N=144）複数回答

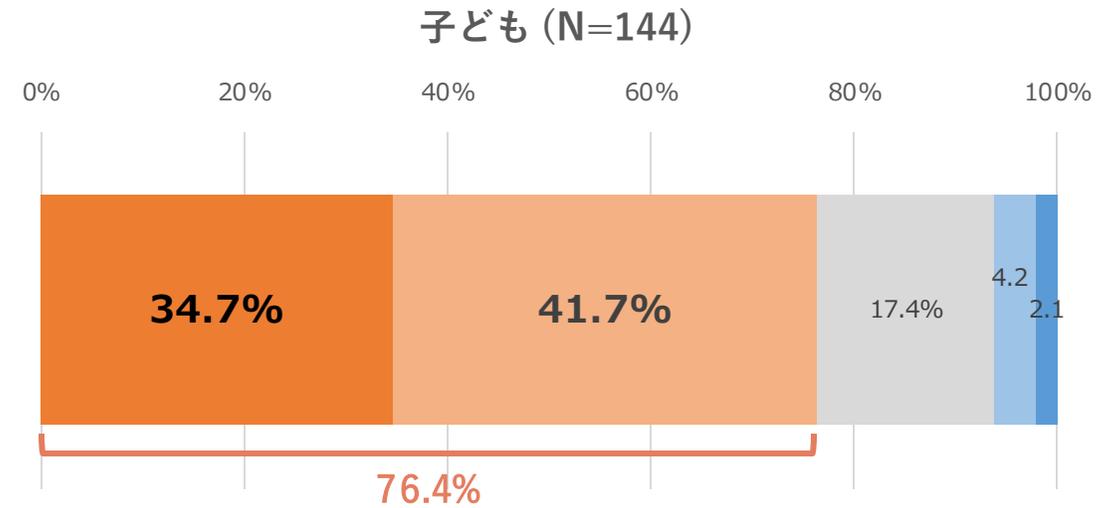


調査結果4-2：現利用者の満足度

現利用者の学童に対しての満足度を保護者・子どもそれぞれに聞くと、回答の傾向は親子で大きくは変わらず、「満足している」、「どちらかといえば満足している」の合計がそれぞれ「79.2%」、「76.4%」と高い傾向になった。



- 満足している
- どちらかといえば満足している
- どちらでもない
- どちらかといえば満足していない
- 満足していない



- 満足している
- どちらかといえば満足している
- どちらでもない
- どちらかといえば満足していない
- 満足していない

調査結果4-3：現利用者の声「満足している理由」

満足の理由として、子どもからは「友達と遊べる」「先生が優しい」「(それぞれに好きな活動が)楽しい」という声が、保護者からは「子どもが楽しんでいる」や職員の対応への声が多かった。

保護者の声

- 子どもが楽しんでいるから（神奈川県1年生、愛知県1年生他、多数）
- 先生がちゃんと見てくれていい方々（青森県3年生、広島県2年生他）
- 費用も安く本人も行きたがっているから（東京都1年生）
- 学童は校内敷地にあり、学校と連携が取れているし、職員の方々の信頼性が高い（千葉県2年生）
- 仲の良い友達ができ楽しく過ごせていることと、季節ごとの制作物（母の日、七夕など）を作るなどよい経験ができるから（岐阜県3年生）
- 手作りのおやつを用意してくれたり、先生方が子供達と遊んでくれたり、ちゃんと見てもらえるから。（奈良県3年生）
- 難病の子なのですが先生達が協力してくれて面倒を見てくれます。子供が帰ってきたことを気にしなくて長い間働けることこれが一番ありがたいことです（広島県2年生）
- 小学校入学前の春休みから通えて、先に学校に慣れておくこともできた。先生もよく見ていてくれると思うし気になることはすぐ報告してくださるため（和歌山県1年生）
- 安全に預かってくれるし宿題をするのを促してくれる（岡山県2年生）
- 子どもは自由がなくて不満みたいだけど親としては安心でありがたい（大阪府1年生）
- 子供の友達が遠方にいるため、早く帰ってきても遊んだりできないので学童で友達と遊べることに満足している（青森県1年生）
- 家でできないいろんな体験をさせてくれる（大分県2年生）
- その子その子に合わせた柔軟な対応をしてくれる（北海道2年生）
- 帰宅したらあまり外遊びしないので良い機会だった（神奈川県2年生）
- 土曜日も預かってもらえて、友達も遊べて、宿題もして帰ってくる（大阪府2年生）

子どもの声

- 友達と遊べるから（広島県3年生、静岡県3年生他、多数）
- 仲がいい友達がいるから（大阪府2年生他）
- 違うクラスや学年の人と仲良くなれる（静岡県1年生、埼玉県1年生他）
- 小学校が違う友達に会えて、嬉しい（茨城県1年生）
- 先生が優しい（東京都1年生、佐賀県2年生他）
- 友達と遊べるし先生に勉強を教えて貰えるので楽しい（兵庫県2年生）
- こまやけん玉がじょうずにできるようになった。公園にも連れてって来て、すごく楽しい。（愛知県2年生）
- おやつが沢山あるから（埼玉県1年生、青森県3年生他）
- 工作して遊べるので楽しい（青森県1年生）
- 友だちと遊べて楽しいし、面白い本やマンガがたくさんあってゆっくり読めるから（岐阜県3年生）
- マンガがたくさんあるから（岐阜県1年生）
- 卓球やサッカーができて楽しい（岩手県1年生）
- おもちゃもあるし、お外でも遊べるし、色々なものを作ったりもするから楽しい（千葉県1年生）
- 自由に過ごせる（北海道2年生）
- 外遊びができて楽しい（北海道1年生、大阪府2年生他）

調査結果4-3：現利用者の声「満足していない理由」

不満の理由としては、子どもからは「**楽しくない**」「**仲のいい友達と遊べない**」が多くあがった。また、「先生がよく怒る」「自由がない」「おやつが少ない」などの声もあった。保護者からは「**子どもが嫌がっている**」「**利用料が高い**」が多く、また、職員の対応や宿題のサポート、過ごし方や環境についての声もあった。

保護者の声

- 子供が嫌がっている（岡山県1年生、静岡県1年生他）
- 利用料が高い（高知県3年生、神奈川県2年生他）
- 高い割に何もしてくれない。おやつ代として払っているが、全然良いものもらってないので不満だらけ（北海道2年生）
- 管理が行き届いていない（滋賀県3年生）
- 勤務時間と合わないので夏休みなどの長期休みに預けられない。（山口県2年生）
- 時間が短い（山口県1年生）
- 宿題を見てもらえない（岐阜県1年生、山口県2年生他）
- 学童の先生の質が悪すぎる。市町村で料金がまちまち過ぎる。もっと補助があればいい。（大阪府3年生）
- コロナ以降イベントが減っていてそのままになっている。様々な体験が以前はできたし屋外での遊びも自由にできた。今は、**屋内のみで制限が厳しい**ので小学生にとってはストレスだろう（群馬県3年生）
- **場所だけで内容はあまりない**（神奈川県1年生）
- **トラブル**が絶えなかったのと、指導は全くされていない（岐阜県2年生）
- **狭い部屋に大人数**、中には大人の指示を聞くことができないお子さんも一緒に何時間も…という環境としては、どうかなと思う部分もある（福島県1年生）

子どもの声

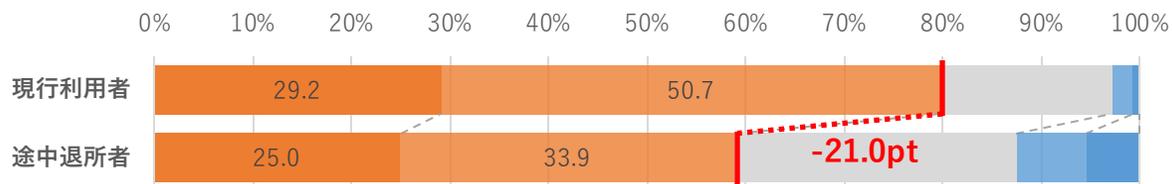
- **楽しくない**（沖縄県1年生、群馬県2年生他、多数）
- クラスのお**友達と遊べない**（埼玉県1年生）
- 同じ学年の**友達がほとんど通っていない**（北海道1年生）
- **一緒に遊ぶ相手がない**時がある（北海道1年生）
- **早く家に帰りたい**から（香川県2年生、大阪府1年生他）
- **先生がよく怒る**から（岡山県1年生）
- 勉強の時は**正座**など厳しい（青森県1年生）
- 先生がお年寄りしかいない（大阪府3年生）
- **する事がなくて、退屈**だから（高知県3年生）
- **自由がなく楽しくない**から（奈良県3年生）
- **うるさい**友だちがいる（岡山県2年生、福島県1年生）
- **意地悪な子**がいるから（石川県3年生）
- 今は下級生がわがままで、**我慢**しなきゃならないことや、**決まりがふえて**、つまらない。（栃木県3年生）
- **おやつ**は苦手なものが多くて少し嫌（福島県1年生）
- **おやつ**が少ない（北海道2年生）

調査結果5-1：現利用者と退所者の項目別評価比較（ハイライト）

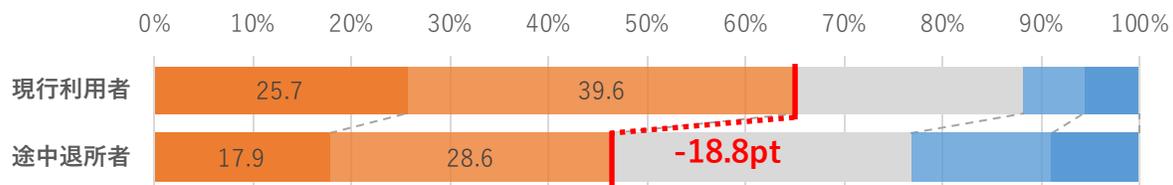
保護者・子どもの項目別評価を現利用者と退所者で比較したところ、退所者の評価が著しく低かった項目は、保護者では「子どもが安全に過ごすことができている(-21.0pt)」「子どもが学童に自ら望んで行っている(-18.8pt)」「困ったときに職員へ相談できる(-17.1pt)」、子どもでは「困った時に助けてくれる人がいる(-21.7pt)」「大人(職員)が話を聞いてくれる(-15.2pt)」となった。

保護者

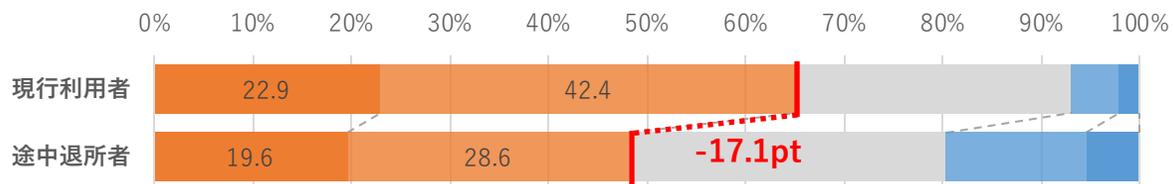
子どもが安全に過ごすことができていると思いますか？



子どもが学童に自ら望んで行っていますか？

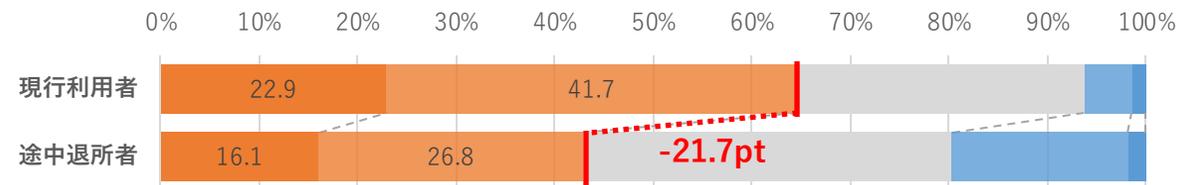


困った時に職員へ相談することができますか？

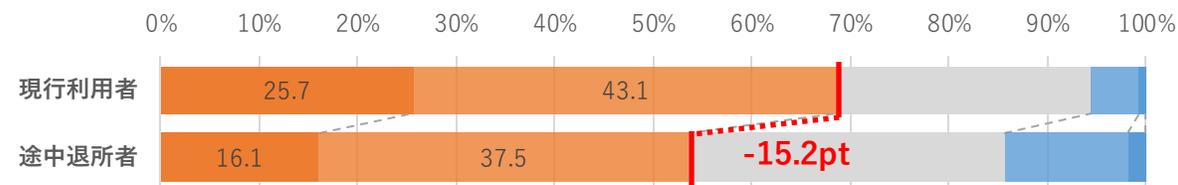


子ども

学童にあなたが困った時に助けてくれる人はいますか？



大人(職員)はあなたの話を聞いてくれますか？



- とてもそう思う/よくある
- どちらかというと思う/時々ある
- どちらともいえない
- どちらかというと思わない/あまりない
- そう思わない/全くない

環境・活動面の保護者の評価について、現利用者と比べて退所者でトップ2ボックスが10pt以上低いのは、「子どもが安全に過ごせる(-21pt)」「学習環境 (-13pt)」「過ごし方の自由度(-11pt)」「室内環境(-10pt)」

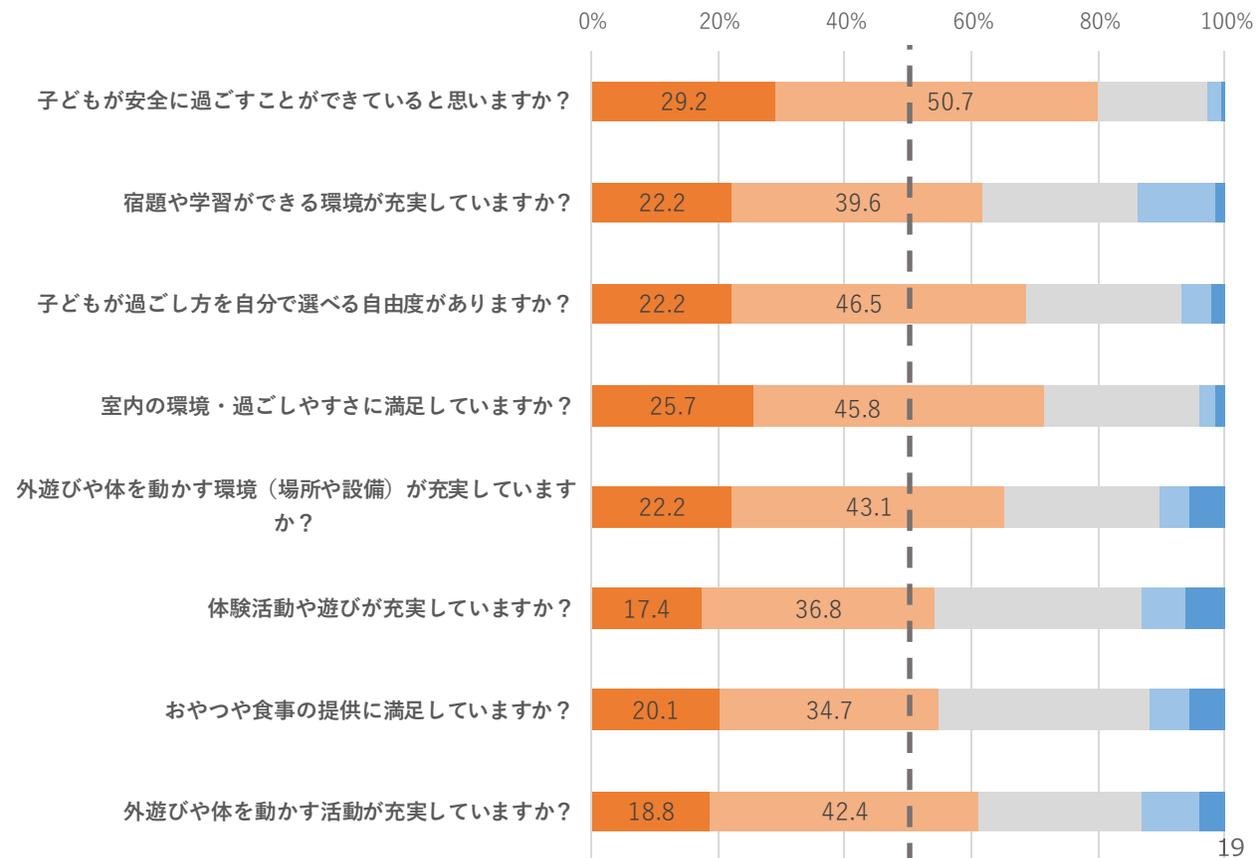
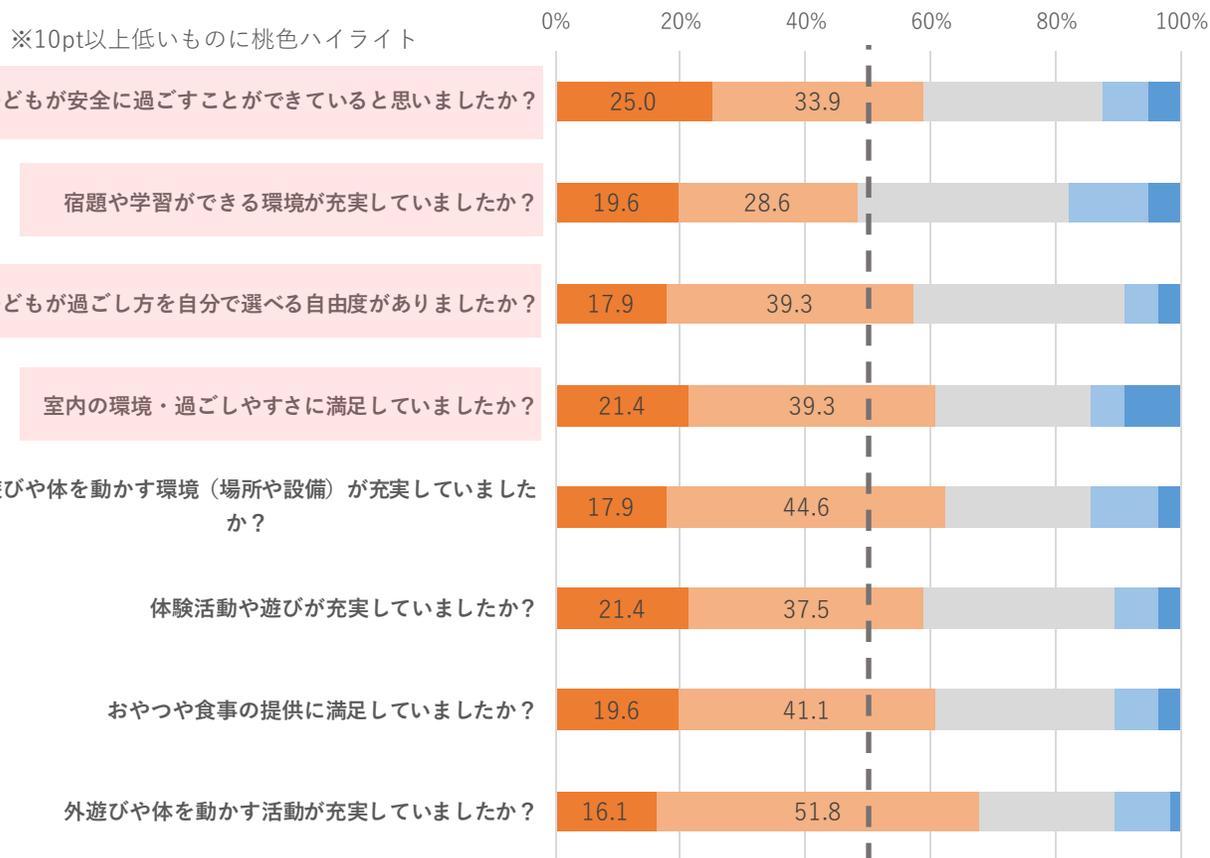
退所者 (N=56)

現利用者 (N=144)

- とてもそう思う/よくあった
- どちらかというと思う/時々あった
- どちらともいえない
- どちらかというと思う/あまりなかった
- そう思わない/全くなかった

- とてもそう思う/よくあった
- どちらかというと思う/時々あった
- どちらともいえない
- どちらかというと思う/あまりなかった
- そう思わない/全くなかった

※10pt以上低いものに桃色ハイライト



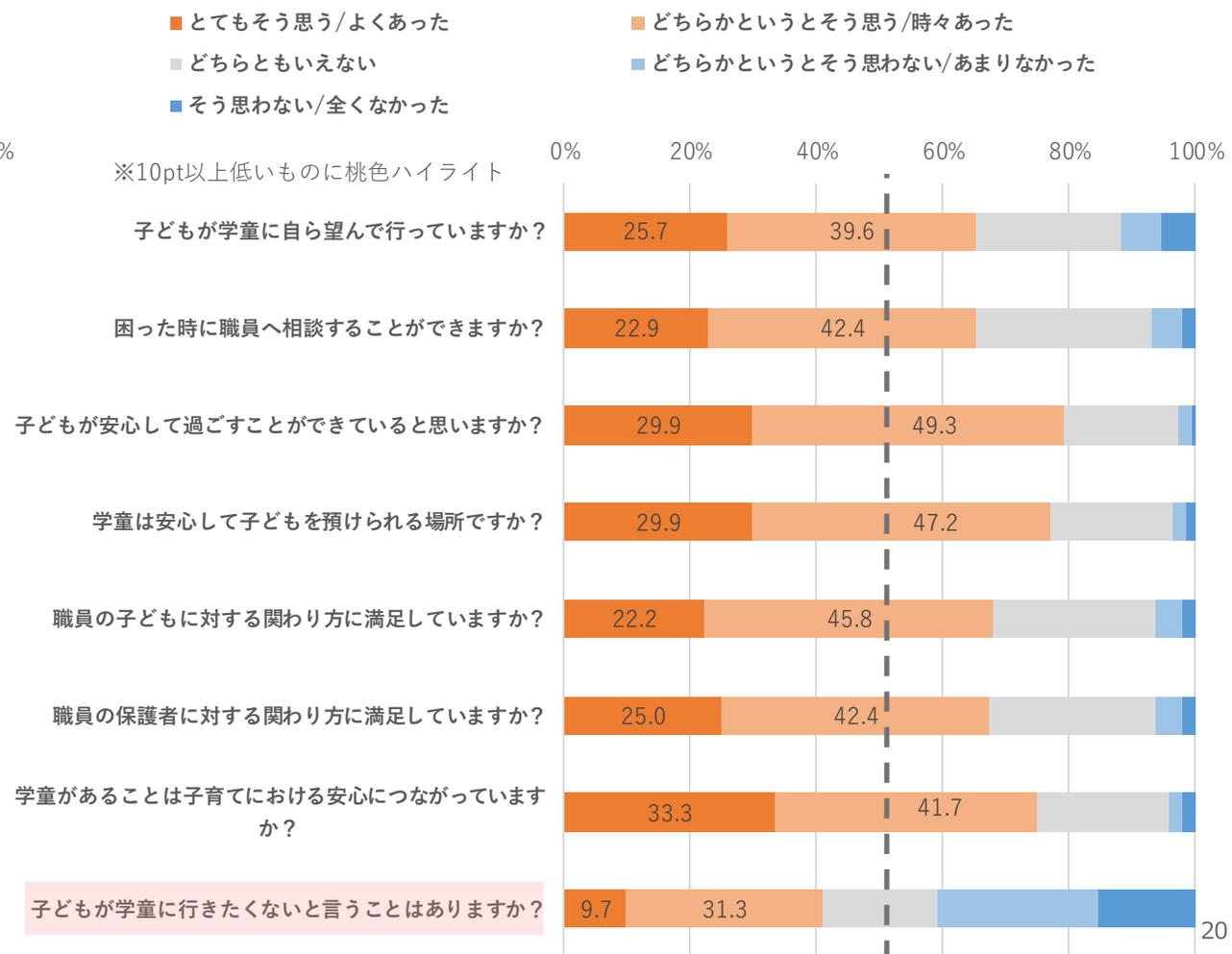
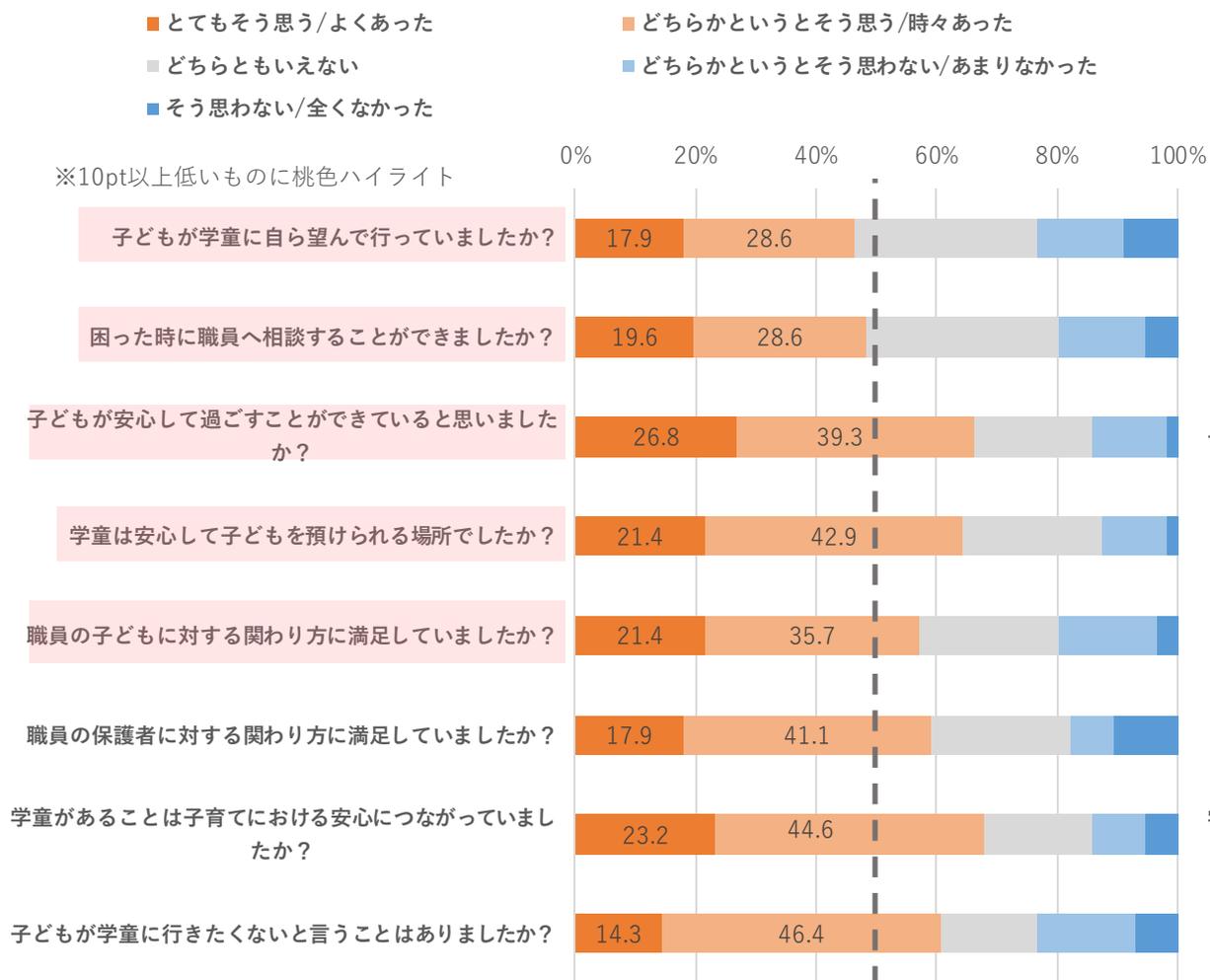
調査結果5-2：現利用者と退所者の項目別評価比較（詳細）

保護者（関わり・気持ち）

関わり・気持ち面の保護者の評価について、現利用者と比べて退所者でトップ2ボックスが10pt以上低いのは、「子どもが望んで行っている(-18pt)」「困った時に相談できる(-17pt)」「子どもが安心して過ごせる(-13pt)」「安心して子どもを預けられる(-12pt)」「職員の子どもへの関わり方(-10pt)」

退所者 (N=56)

現利用者 (N=144)



環境・活動面の子どもの評価について、現利用者と比べて退所者でトップ2ボックスが10pt以上低いのは、「遊びや体験の充実(-10pt)」「好きな遊びができる(-10pt)」

退所者 (N=56)

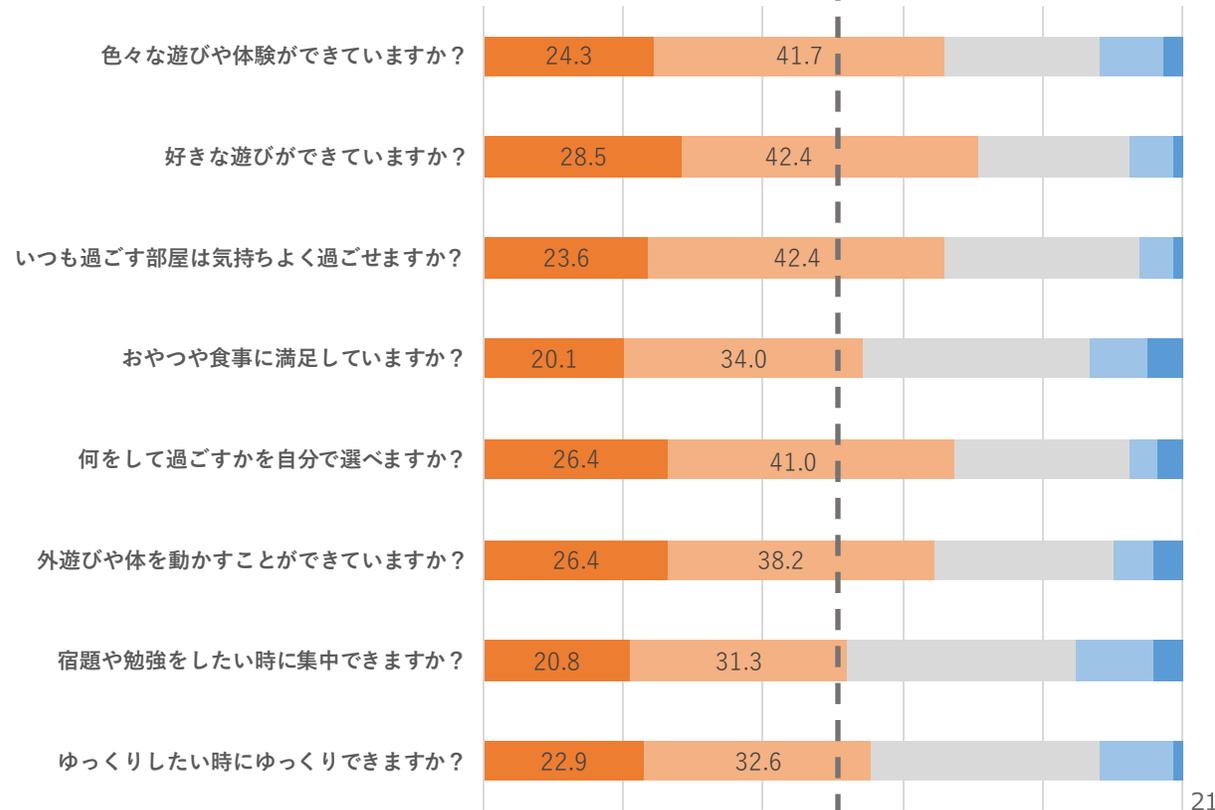
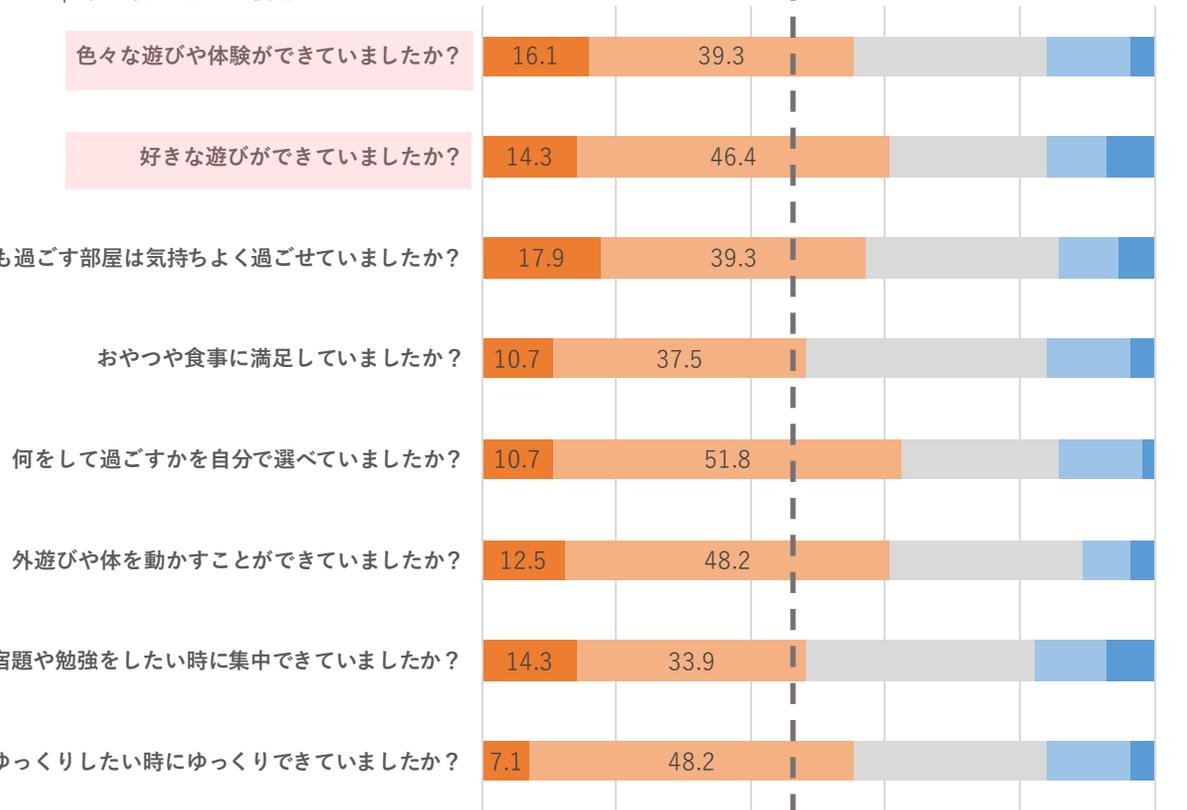
現利用者 (N=144)

- とてもそう思う/よくあった
- どちらかというと思う/時々あった
- どちらともいえない
- どちらかというと思わない/あまりなかった
- そう思わない/全くなかった

- とてもそう思う/よくあった
- どちらかというと思う/時々あった
- どちらともいえない
- どちらかというと思わない/あまりなかった
- そう思わない/全くなかった

※10pt以上低いものに桃色ハイライト

0% 20% 40% 60% 80% 100%



関わりや気持ち面の子どもの評価について、現利用者と比べて退所者でトップ2ボックスが10pt以上低いのは、「助けてくれる人がいる(-21pt)」「大人が話を聞いてくれる(-15pt)」「相談できる人がいる(-13pt)」

退所者 (N=56)

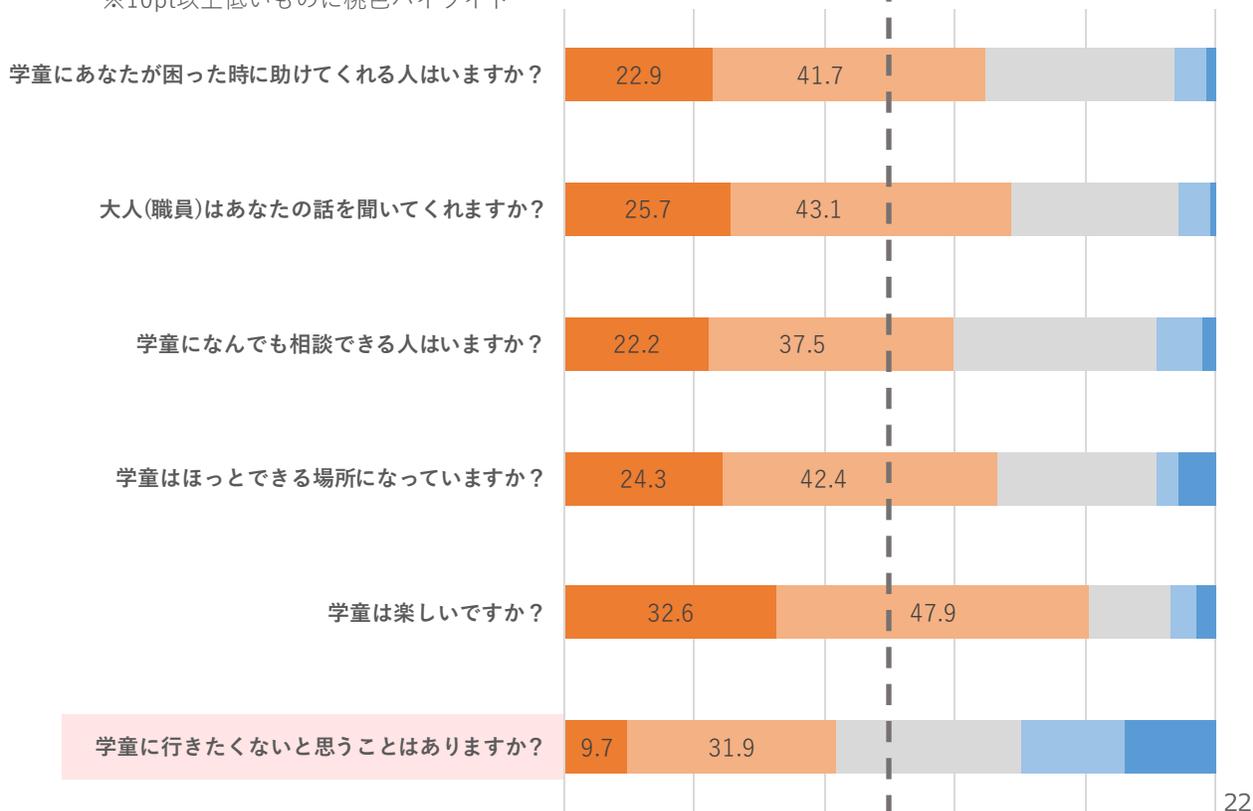
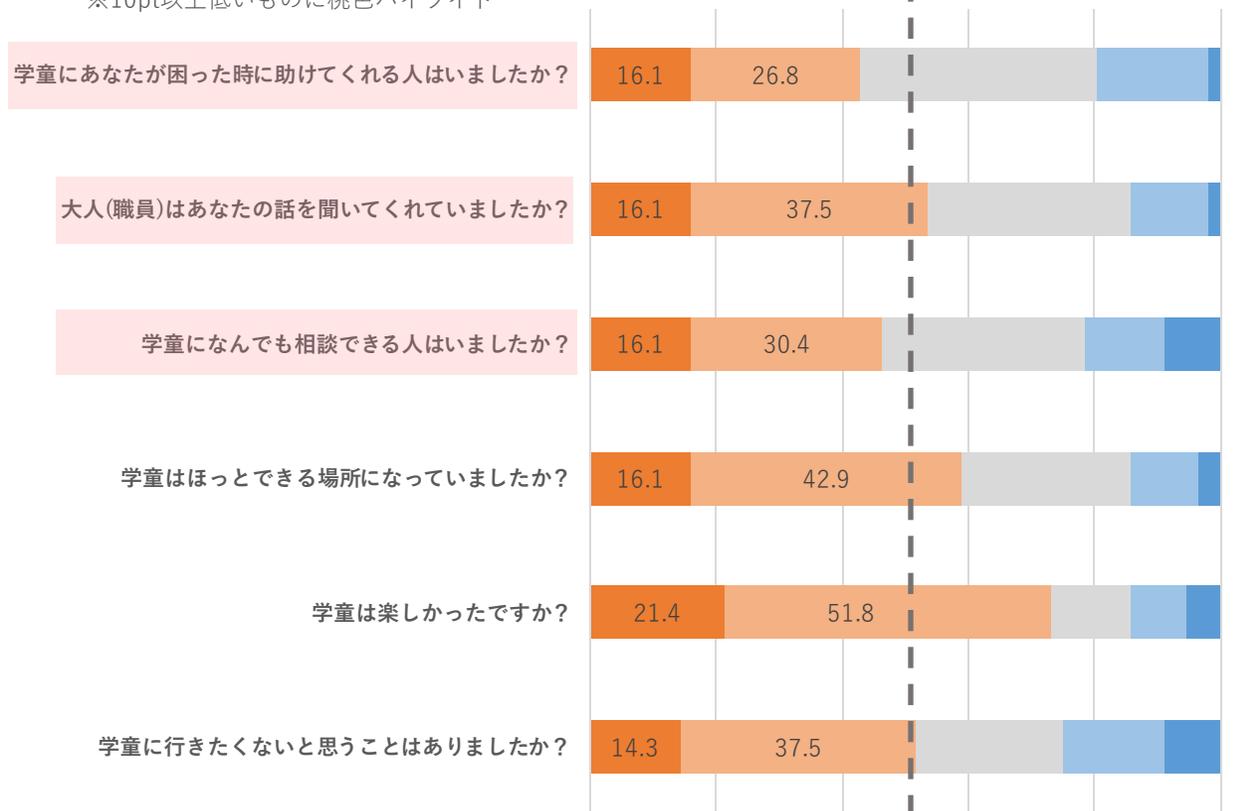
現利用者 (N=144)

- とてもそう思う/よくあった
- どちらかというと思う/時々あった
- どちらともいえない
- どちらかというと思わない/あまりなかった
- そう思わない/全くなかった

- とてもそう思う/よくあった
- どちらかというと思う/時々あった
- どちらともいえない
- どちらかというと思わない/あまりなかった
- そう思わない/全くなかった

※10pt以上低いものに桃色ハイライト

※10pt以上低いものに桃色ハイライト



『1年生初期の学童退所』について実態把握と課題の特定を

今回の調査結果から得られた示唆は、1つ目に、**1年生の初期で放課後児童クラブをやめる割合が多いこと**、都市部においてはその理由として「**子どもが行きたがらなくなったから**」が多いこと、ここに取り組むべき課題があるのではないかと思います。本調査における退所者のサンプル数が56と少ないことから、今後、母数を増やして再調査を行い、退所理由や退所後の過ごし方などを明らかにする必要があると考えられます。

また、共働きで放課後児童クラブに入所しなかった層も同様に「**子どもが行きたがらなかったから**」を理由にあげた割合が多いことから、ここにも課題があると考えられます。

放課後にすべての子どもが安心して過ごせる居場所を得られるために、非入所者や退所者といった、**待機児童として顕在化していない層**に課題が隠れていることに着目し、実態の把握と課題の特定を早急に行うことが求められます。

次に、2つ目の示唆は、**子ども自身が行きたいと思える要因として「友達と一緒に遊べること」が重要である**ということです。不満や退所の理由として「学童に通っていない友達と遊びたい」という声が多くあがりました。就労等の入所要件がある放課後児童クラブにおいては制度上不可避な問題ですが、子どもの声を聴くと、誰でもアクセスできる放課後の居場所が求められていると言えます。

そして、3つ目の示唆は、**放課後児童クラブ職員と子どもとの関わり方の重要性**についてです。子どもの項目別評価を退所者と現利用者で比較した結果から「困った時に助けてくれる人がいる」「大人が話を聞いてくれる」など、**職員との関わり方や関係性について特に差が大きく表れました**。多くの子どもを見守らなければならない毎日の中で、一人ひとりの子どもとの信頼関係構築に必要なマインドやスキルを職員が十分に得られるよう支援していくことが、放課後児童クラブの「質」の向上に資する重要事項と考えられます。

こども大綱やこどもの居場所づくりに関する指針を受け、放課後事業においても「こどもの声の反映」に取り組んでいくことが求められています。

本来必要であるはずなのに放課後児童クラブを利用していない・利用できていない子どもと保護者の声を聴くことも忘れてはいけません。

本調査をきっかけに、さらなる放課後の実態把握と課題の特定が進み、より本質的な解決策につながっていくことを期待しています。



【平岩への取材・本件へのお問い合わせ先】

放課後NPOアフタースクール

広報

Email: press@npoafterschool.org